

秋シーズン第4戦。甲南大学は昨年1部で戦っていた強敵であるが、阪大はシーズン初白星を挙げたい。



1Q

甲南大のキックにより試合開始。阪大は自陣 34yds からの攻撃となるがなかなかフレッシュできずパントを選択。2 回生 P#80 齋藤のパントにより敵陣 4yds まで陣地を回復する。しかし、甲南大 O#はランで着実にフレッシュを重ね、G 前 7yds まで攻め入られる。阪大 D#も奮闘するが甲南大のランを止めきれず TD を取られてしまう。TFP のキックも決められ、0-7。甲南大のキックにより試合再開。4 回生 RB#24 坂本の 32yds のランで一気に敵陣へ。そのあともランやパスを織り交ぜて 1st down を獲得するも TD には至らず第 1Q 終了。



2Q

敵陣 15yds から阪大の攻撃が再開。なかなかパスが通らず、阪大は FG を選択。K#80 齋藤の蹴ったボールは惜しくも右に逸れ、失敗。攻撃権は甲南大へ。甲南大 O#はランを中心に攻撃を進める一方で阪大 D#の虚を衝くパスを成功させ、そのまま TD される。TFP のキックも決められ 0-14。甲南大のキックで試合再開。4 回生 QB#6 渡辺の力強く投げたボールを 3 回生 WR#13 柴山が見事にキャッチ。約 45yds のパスが成功！その直後も 4 回生 WR#11 長谷川へのパスが成功し、そのままエンドゾーンを駆け抜け TD。TFP のキックはボールがポールに当たって不成功、6-14。なんとか同点に持ち込み後半に繋げたいところだ。甲南大 O#はまたしてもランプレーで 1st down を奪っていく。ところが QB の投げたボールを 3 回生 DB#30 稲生が見事にインターセプト！阪大は自陣 50yds から攻撃となる。4 回生 RB#24 坂本や 2 回生 RB#33 正垣の俊足を活かしたすばやいランでフレッシュを重ねる。3 回生 OL#72 鹿毛のブロックと共に RB#24 坂本がエンドゾーンを突っ切り TD！阪大はここで 2 ポイントコンバージョンを選択。TE#80 齋藤へのパスが決まり、14-14。同点に追いついた。しかし喜びはつかの間、阪大 D#はパスを許し、一気に走り抜かれて TD される。TFP のキックも決められ、14-21。阪大 O#は攻めあぐね、加点できないまま第 2Q が



終了。

3Q



阪大のキックにより試合再開。甲南大 O#は引き続きランプレーを主体に 1st down を更新する。レッドゾーンまで攻め込まれるも 4 回生 DL#99 西川のロスタックルなど阪大 D#も奮闘し、FG に抑えて 14-24。甲南大のキックで試合再開。甲南大が蹴ったボールを 3 回生 RB#21 和田が約 80yds のビッグリターン！敵陣 13yds まで攻め入る。この絶好の機会に阪大は追加点を狙う。QB#6 渡辺が自らボールも持ってランを試みるもフレッシュには至らず、FG を選択することに。キックは高さが足りず不成功。攻撃権は甲南大へ。阪大 D#は必死にランを止め、パントを選択させる。しかし、阪大 O#もなかなか思ったようにゲインできずにパントを選択し、D#に望みを託したところで第 3Q が終了。

4Q

2 回生 LB#54 東口の強烈なロスタックルから始まった第 4Q。阪大 D#は GL を背にする厳しい状況ながらも素早い反応でフレッシュを許さず、FG を選択させる。ここで甲南大のホルダーがファンブルし、FG は不成功に終わる。阪大は自陣 30yds から攻撃。阪大 O#は QB サックやロスタックルを受け、パントを選択する。しかし甲南大リターナーに次々にタックルを交わされ、そのまま TD される。TFP のキックも決められ 14-31。なんとか点差を縮めたい。甲南大のキックにより試合再開。阪大 O#は WR#11 長谷川へのパスや RB#24 坂本のランで 1st down を更新。しかし 3 回のパスが失敗し、ギャンプルを決意。パスは通らず、甲南大へ攻撃権が移る。阪大は流れを掴めないまま、ランによる大幅ゲインを許す。じりじりと G 前まで攻め入られ、FG を決められてしまい、14-34。試合終了まで残り 2 分にさしかかったところだった。甲南大の蹴ったボールを 1 回生 RB#29 豊田が約 40yds のビッグリターン。敵陣 36yds から攻撃を開始。阪大 O#はパスによるタッチダウンを図るもなかなかパスが通らない。4thdown はギャンプルを選択し、4 回生 WR#81 鈴木へパスを成功させるもフレッシュ獲得ならず、攻守交替。阪大は再度攻撃権を得られず、試合終了。





連敗を重ねてしまった。このまま負け続けるわけにはいかない。次節は大阪体育大学戦。春シーズンでは勝利した相手だが気は抜けない。課題に真摯に向き合い、勝利に貪欲であり続けよう。BE ONE.